



## こけたって、立ち上げれ

(1月17日)

谷口浩美さんの特別講演会が市民文化センターで開催されました。バルセロナオリンピック男子マラソンで途中転倒するも8位に入賞するなど活躍した谷口さん。自らの陸上人生を振り返りながら「練習、睡眠、食事など、当たり前のことをいかに当たり前にできるかで勝負は決まります」と講演しました。講演後は、参加者からの質問に丁寧に応じてくれました。

## フィルムコミッションの魅力を知る (1月25日)

すそのロケフェスタ2020が市役所で行われました。映画やドラマのロケ支援「フィルムコミッション」事業を市民に知ってもらう催しで、芸能事務所社長の木谷真規さんが映画の作られる過程やプロデューサーの役割を解説。交流会では、市民エキストラによる体験談発表や映画『キングダム』裾野ロケでも提供されたケータリングの試食も行われました。



## 掛け声響き、熱戦繰り広げる

(2月2日)

剣道スポーツ少年団級別大会が市民体育館で開催されました。少年団に加入している25人が出場。無級の部から3～6級の部までは、2人ずつ正面打ちや小手打ち、小手・面打ちなどを順に行い、判定されました。1・2級の部は、2分間の3本勝負。「えい!」「やー!」「メーン!」と大きな声が体育館に響き渡り、迫力ある戦いが繰り広げられました。

## メダリストから走り方を学ぶ

(2月2日)

北京オリンピックの4×100mリレー銀メダリストの高平慎士さんが、運動公園陸上競技場で陸上教室を行いました。市内外の中学生と高校生約100人が参加。参加者は、トレーニングをゲーム感覚で楽しみながらも真剣に取り組んでいました。高平さんは「自分自身を理解し、考えながら練習すると次の練習に生かれます」とアドバイスしました。 特派員：権田 孝一





**踏み間違い加速抑制システムを寄付** (2月5日)

株式会社カーテックフジ、トヨタ部品静岡共販株式会社、静岡トヨペット株式会社の代表が市役所を訪れ、踏み間違い加速抑制システム1台を市に寄付しました。このシステムは、自動車に外付けで装着するもの。ブレーキとアクセルを踏み間違えたときなどに加速を抑制します。今後、公用車にモデルとして取り付け、高齢者運転による事故の抑止施策のPRなどに活用します。

**それぞれの思いを堂々と発表** (2月8日)

英語スピーチコンテスト・日本語スピーチが生涯学習センターで開催され、市内中学生15人と外国人5人がそれぞれの思いをスピーチしました。中学生は手振りを交え、部活動で頑張っていることや将来の夢を流ちょうな英語で、外国人は日本での生活などについて丁寧な日本語で発表しました。コンテストの最優秀賞は、西中学校2年の剛力菜央さんが受賞しました。



**竹の炭で電池ができるか** (2月9日)

環境学習フェスティバル「竹炭電池づくり」が南児童館で行われました。小学生21人が、高温で焼いた竹炭と缶から切り出したアルミ板を電極に使い、リサイクル電池を作りました。最初は本当に電球が光るのかと半信半疑でしたが、竹炭を入れた容器に塩水を注いでみると、電球が赤く光り、驚きと達成感の笑みを浮かべて喜んでいました。 特派員：中村 隆司

**被災時の学習支援で協力** (2月13日)

災害時における学習活動に関する支援協定を駿沼学校生活協同組合と締結しました。この協定に基づき、大規模災害発生時には、学用品や衛生管理用品、体育衣料などが無償で提供されます。心のケアとして演奏会などを催すことにも応じてくれます。市長は「災害時に学習面と共に心のケアまで支援していただけるのは、大変ありがたく思います」と述べました。

